

滞在報告

分子集合解析領域 博士課程2年 原田 布由樹

令和7年度若手研究者国際短期派遣事業の支援を受け、約三ヶ月にわたり、スイスのチューリッヒ近郊にあるスイス連邦材料化学研究所 (Empa) にて、Maksym Kovalenko 教授の研究室に滞在しました。Empa はスイス連邦工科大学 (ETH) グループの一部であり、ETH での実験も行いました。チューリッヒ近郊は現代的で都会な印象を受けると同時に、緑豊かで公共空間が広く、巨大な公園のようにも感じる都市でした。

Kovalenko 教授の研究室ではペロブスカイトナノ結晶と呼ばれる発光性の粒子に関する研究に従事しました。分野の最先端を走る研究室で実験や議論を重ねる中で、実験技術のノウハウや最新の研究課題への理解を深めることができ、今後の研究にも存分に生かしていきたいと考えています。

Kovalenko 教授や研究室のメンバーは非常にフレンドリーで、研究内容だけではなく、日常生活やお互いの国の文化についてもさまざまな話をすることができました。特に、昼食は研究室の休憩室に集まり、食事や雑談をしながら研究についての意見交換を行なっている光景が印象的でした。

研究以外では、研究室のメンバーとともに駅伝に参加したり、大学寮のルームメイトと観光をしたりと、交流を深めると同時に、スイスの美しい自然を堪能することができ、充実した生活を送ることができました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった京都大学化学研究所および ETH グループ関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



(左) ペロブスカイト量子ドットの溶液と、紫外光を受けてカラフルな蛍光を発するペロブスカイト量子ドット。(中央) 実験を行ったスイス連邦材料化学研究所 (Empa) の建物。(右) 研究グループの学生たちとの集合写真。